

八王子市生涯学習プラン（平成 27～31 年度） 令和元年度（2019 年度）生涯学習関連事業評価

○生涯学習プランの進行と管理について

生涯学習プランに掲げる生涯学習施策を推進するには、教育部門だけではなく、福祉、保健、医療、子ども、環境、産業振興など、様々な分野の計画・事業実施所管と連携し、学習提供、啓発活動、市民協働の取組を行っていく必要があります。

本市では、庁内に「生涯学習推進会議」を設置し、全庁的な体制のもとにプランを推進し、本市における生涯学習社会の実現を目指すとともに、市民委員や学識経験者等で構成する「八王子市生涯学習審議会」を開催し、市民感覚を反映した生涯学習の振興に関する施策の審議、生涯学習に関連する事業の評価を行っています。

○基本施策ごとの生涯学習関連事業評価

八王子市生涯学習プラン(平成 27～31 年度)の5年間の計画期間のうち、最終年度となる令和元年度(2019 年度)において実施した、生涯学習に関連する事業は、全 533 事業になりました。

これらの事業について、実施所管課が事業ごとに自己評価を行ったうえで、八王子市生涯学習審議会により、生涯学習プランの「基本施策」ごとに評価を行いました。

基本施策 1 子どもの頃から始める学びの基礎づくり

生涯学習関連事業 113 件

■施策の方向性（旧生涯学習プラン）

子どもは成長過程のさまざまな機会できざまな人々と関わり、人間関係や社会での経験を積み重ねることで、生きる力を育みます。市民が生涯にわたって学び続け、学んだ成果を社会で活かすことができる生涯学習社会の実現のため、人間形成の基礎となる幼児期や学齢期のうちから、学びの基礎・学ぶ習慣を身に付けることが重要です。

子どもたちが健やかに育ち、豊かな人生を歩むための基礎づくりとして、家庭での教育を支援し、今まで以上に学校と地域が連携し、多様な学習機会を提供していきます。

■令和元年度(2019 年度) の主な取組

1-1 生きる力を育む子どもの学びと体験の充実（57 事業）

8. ひとり親家庭親子ふれあい事業	子どもの体験活動の充実に寄与するとともに、親子間やひとり親家庭同士のコミュニケーションを深める機会を提供した。元年度は初めての試みとしてバスツアーを開催し、満足度は 91.7% と非常に高い結果となった。
30. 北海道白糠町小学生交流事業	歴史的に関係の深い白糠町と本市の小学生に、様々な体験活動を通じて両市の歴史や文化を理解し合う学びの機会を提供した。元年度は白糠町の小学生 14 人を受け入れ、本市小学生 15 人との交流の中で友情を育み、親善を深めることができ、全員から高い満足度を得た。
41. 八王子城跡まつり【新規】	地元町会や関連団体と協力し、元年度は初めて大規模なイベントとした。八王子開市の日に合わせ、子どもたちを対象としたイベントとすることで、歴史への理解と郷土愛の醸成を図った。想定の 4 倍を超える来場者数となり、協力団体や来場者からも高い評価を得た。

1-2 家庭教育の支援の充実 (31 事業)	
62. 家庭教育啓発リーフレット等の配布	内容を大幅に刷新したリーフレットを、元年度は配布対象を保護者だけでなく、町会や行政委員などにも広げた。世相にあった内容と配布対象の拡大により、家庭内における社会のマナーや基本的な生活習慣等の定着に対する支援を充実させることができた。
67. プレママ (パパ) 料理教室	食事に対する興味が出る妊娠期に妊産婦の食事、離乳食の理解、家族の食事の見直しの機会を提供するとともに、子育ての仲間づくりの促進に寄与した。元年度は、生活習慣病の講話を追加し、家族の健康づくりへの関心を高めることができた。
80. ブックスタート	親の前で子どもへの読み聞かせを行い、読書に親しむきっかけとするとともに子育てに役立つ情報を伝えた。読書を通じた親と子のふれあいのひと時を応援することにより乳児が健やかに育ち、保護者が安心して子育てのできる環境づくりに寄与した。
1-3 学校教育活動の支援 (10 事業)	
90. 八王子「宇宙の学校」	こども科学教室 (スクーリング) と日常の家庭学習を組み合わせ、宇宙や科学と家庭・地域を結び付けることで探究心の強い子どもたちの育成に寄与した。市民、事業者、学校、市が協働する実行委員会形式で実施しており、毎年人気がある。
92. 劇団四季 こころの劇場	目標の 55 校を超える 58 校が参加した。児童に身近な場所で優れた文化や芸術を鑑賞する機会を提供した。(公財) 八王子市学園都市文化ふれあい財団のノウハウを校長会に引き継ぐことで、校長会が主導して運営することができ、劇団四季との連携が一層合理化された。
1-4 地域の教育力を活かす・高める (15 事業)	
99. 冒険イベント里山で遊ぼう	公園の指定管理者と市民団体「長池野外活動クラブ」の共催で冒険プログラムを行い、小学生の野外体験活動を促進した。フィールドの活動が活発化することで市民団体ボランティアの加入が増えるとともに、人材育成ができた。
113. 放課後子ども教室	平日の放課後や週末、夏休み等に小学校内の施設を活用し、地域の人材、ボランティアの参画を得て子どもたちに安全で安心な居場所を提供した。元年度は新たに 1 か所で開始した。地域や学校、学童保育所担当所管と連携を図り、実施日数の増加や学習プログラムの拡充することができた。

■令和元年度(2019 年度) 生涯学習審議会評価

乳幼児や親子などを含め、子どもを対象とした講座数は、全事業のうち 20% を占め、多種多様な子どもの学習を提供している。子どもの好奇心をかきたてる内容が多く、充実した経験の機会を提供することで、多くの学びに結びつけることができている点が評価できる。

子育てが始まると、社会とのつながりを今までと別の視点から意識し始めることになる。そのため、「80. ブックスタート」のように、子育ての始まるタイミングで生涯学習を提供し、その大切さを伝えることは、親はもちろん、子どものその後の人生の学びや生きがいにつながる点でとても重要である。

事業内容については、性教育、LGBT、ローンや保険の仕組みなど、時代に合わせて範囲を広げることで、参加者の増加を図ることも一案ではないか。

「90. 八王子『宇宙の学校』」や「92. 劇団四季『こころの劇場』」のように、他の団体と協働して実施する事業も展開されている一方で、「基本施策 1」の事業の過半数は市単独事業となっている。経費を掛けずに事業の実施をしている点は評価できるが、今後、NPO や共催、実行委員会による実施を検討し、より多様な市民が生涯学習の担い手となることを期待したい。

■施策の方向性（旧生涯学習プラン）

誰もが、いつでも、どこでも生涯にわたり学ぶことができるよう、読書やスポーツ・レクリエーションをはじめ、多様な学習の機会をさまざまな場所で提供します。市民が持っている知識と経験が活かされるよう、市はコーディネーターとしての役割を果たし、学習の内容を充実させていきます。

■令和元年度(2019年度)の主な取組

2-1 身近で多様な学習機会の提供（60事業）	
119. 再生可能エネルギー（木質バイオマスボイラー・足湯併設）の普及啓発	小学生の施設見学の際にも活用し、再生可能エネルギーの普及啓発に大きく貢献した。新型コロナウイルス感染症の影響で3月は全休したものの、利用者数は前年を上回った。
125. 工作イベント	日本庭園が眺められる旧民家で、高尾の特徴である多種多様な動植物を題材とした工作を行うことで、地域や生物への学習意欲向上の機会を提供するとともに、憩いの場として庭園に親しんでもらうことができた。
155. 156. 八王子学園都市大学（いちょう塾）	大学等の高度で専門的な学習機会として、元年度は一般講座 250 講座で受講者 2,652 人、公開講座 58 開講で受講者 4,367 人に提供し、市民の生きがいがづくりや地域の活性化に貢献した。ニーズの分析を行い、満足度の高い講座や八王子学など本市の特性を生かした講座等を行い、学習機会の充実につながった。
2-2 読書のまち八王子の推進（26事業）	
176. としょかんたんけんたい	元年度は予定以上の応募があったが、受け入れ可能な範囲で柔軟に対応し、子どもたちに図書館や読書に親しみを持ってもらうきっかけを提供することができた。
183. 対面朗読	視力障害等で読書に親しむ機会の少ない市民に対し、図書館の対面朗読室で図書の朗読を行うなど、読書環境を整備した。蔵書点検中に他館の対面朗読室が利用できるようしたり、ボランティアと連携したりすることで、実施回数を増やし、読書に親しむ機会を拡充することができた。
190. おはなし会	親子を対象に本に親しむ機会を提供するとともに、読書習慣の育成を支援した。「0歳児向けおはなし会」を開始し、生後3・4か月（ブックスタート受診時）から生後12か月（ぴよぴよえほんのじかんの対象は1歳～）までの子どもを対象としたおはなし会を企画し、参加者から好評を得た。
2-3 八王子の特色を活かした文化芸術の振興（52事業）	
200. オリンパスホール八王子で化石を探そう！（新規）	元年度から新たに行った事業であるが、ワークショップの参加者は100%の満足度だった。さらに、ホワイエ部分の化石を見るための一般開放を行い、ホールをより身近に感じてもらうきっかけを提供することができた。
201. 伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル2019～	まちなか等の身近な場所で、八王子や多摩地域の伝統文化・芸能に親しむ機会を提供した。八王子車人形等をまちなかで披露することで、目標値を上回る36,602人の来場者があり、事業の認知度向上へと繋がり、市民が文化に親しむきっかけづくりに貢献した。
237. 避難訓練コンサート（南大沢文化会館）	防災意識を高めるとともに、児童にホールで生演奏を体感する機会を提供し、9割以上の児童から満足の評価を得た。目標の一つである複数小学校との協働実施は、1校増えて3校となり、小学生の防災意識を高めることができた。小学校、ビル管理者、施設の連携を深めることができた。

2-4 生涯スポーツ・レクリエーションの推進 (57 事業)	
252. あったかホール健康教室	複合施設として、環境以外に健康増進のための講座を年間を通して開催し、子どもから高齢者まで、それぞれのニーズに合った健康教室で、市民の健康づくり、健康増進に寄与した。述べ参加者数は13,000人以上で、身近な運動習慣の場として定着している。
253. 健康フェスタ 食育フェスタ	体験型ニュースポーツや体力測定・ゲームなどを通じ、健康づくりのきっかけづくりの場となった。参加者が楽しみながら体験できるイベントにしているため、若い世代が増えた。
264. ボッチャ体験会	パラリンピック正式種目である障害者スポーツ「ボッチャ」の体験会を開催した。目標を大幅に超えて依頼があり、広く普及することができた。
2-5 高齢者の生きがいづくり (51 事業)	
321. シニア向けいきいき健康講座	法政クラブ（法政大学）と連携し、高齢者向けの講座を定期的実施した結果、大変好評を博し、募集定員を倍増することになり、より多くの高齢者の健康増進に寄与することができた。
341. シニア元気塾 コーディネーター養成講座	高齢者活動コーディネーターを養成し、高齢者の社会参加促進を図った。参加者に対しての修了者見込率 94%と高い数値で高齢者の社会参加促進を図ることができた。
2-6 共同参画・共生社会の実現 (50 事業)	
382. パソコン訪問相談	来所が困難な視覚障害、難病指定の疾患をお持ちの方のご自宅に訪問して実施した。依頼者の状況に合わせた丁寧な対応ができたため満足度が高かった。障害者の情報収集手段として IT の有効活用が重要であり、障害者の情報不足の改善に寄与した。
396. 外国人介護従事者等に対する日本語学習支援事業 (新規)	市内介護事業所に就労している、又は就労する意欲のある在日外国人等に対し、日本語教室を実施した。元年度からの取組であるが、市内大学への周知や外国人向け情報誌「Ginkgo」に掲載など、多方面に周知することで、目標以上の参加者数となった。
399. 男女共同参画の啓発	男女共同参画に理解を深めてもらうため、広く一般の方を対象に講座を実施した。アンケート集計結果における満足度は 96%を達成できた。

■令和元年度(2019 年度) 生涯学習審議会評価

市民全体を対象にした事業展開となっており、子どもから高齢者、障害者へと学習の機会が提供されている点が評価できる。

「157. 八王子市地球温暖化防止活動推進センターにおける講座の実施」、「158. 地球温暖化防止普及啓発イベント」のようなタイムリーなテーマを扱う講座を始め、多岐にわたる事業を展開しており、参加者の学習意欲の向上が図られる有意義な学びを提供している。

「2-2 読書のまち八王子」は、幅広い世代に向けて多様な事業が展開されている。今後もより多くの市民に図書館を利用してほしい。特に親が率先的に子どもと一緒に利用できる環境が大切であり、まず低学年のころから親が子どもと一緒に図書館を利用する習慣をつけるような取組を期待したい。

図書館の利用者を増やすとともに、今後は「読み」の質向上を目指す事業を展開も検討してほしい。いわゆる「深い読み」を身につけることで、人の資質として大事な「共感」や「洞察」などが育まれるため、こうした「読み」の技術向上を積極的に目指す事業の展開を期待する。

誰でも参加できる事業は、特に子どもたちにとっては得難い異年齢の方々との触れ合いの機会にもなる。「245. 文化財見て歩き」のような町歩きイベントは、世代間交流が期待できるほか、

八王子の文化を実際に歩きながら学べる点で評価できるため、今後も充実を期待したい。

また、「330.勉強お助けサポーター養成講座」は、地域の子どもに対してシニア世代が学習を支援することで、多世代が学びを介して交流できる場となっており、今後の発展を期待したい。

誰でも安心して生涯学習に取り組むことができるように、施設・会場のバリアフリーや、緊急時の対応を決めておくなど、イベントや講座の提供を継続できる環境を整備することも必要である。

基本施策3 学習成果を活かし市民がつながる生涯学習の推進

生涯学習関連事業 85 件

■施策の方向性（旧生涯学習プラン）

生涯学習を通じて得た知識や経験が、自己の学びにとどまらず、社会や地域での学習活動に活かされることにより、人とひととの交流が生まれ、その交流が新たな学びや生きがいをもたらすという学習成果の循環をめざします。

この循環の実現のため、ボランティアや指導者の育成、そしてイベントの実施を通じて市民のネットワークづくりを支援し、市民団体やNPO 法人などと連携・協働した、新たな生涯学習のしくみづくりに取り組みます。

■令和元年度(2019 年度) の主な取組

3-1 人材の育成と活躍の場の提供 (37 事業)	
427. 八王子城跡ガイドボランティア	郷土の歴史を学んだ市民に実践の場を提供し、郷土愛の醸成を図るとともに、市民との協働による史跡の活用に寄与した。八王子城跡まつりをはじめ各講座等においてもガイドが主となり活躍する機会が増えた。
437. 市民活動入門講座(アクティブ市民塾)	市民活動に対する理解を深め、市民活動を促進する。目標参加者を上回る 180 人の参加があり、好評を得た。引き続き、市内で活動する市民活動団体を紹介し、市民活動に対する理解を深める。例年、多数の参加者がある事業であり、市民活動団体の周知、市民への市民活動への理解につながっている。
3-2 学びの成果を活かす機会の充実 (23 事業)	
458. 八王子市立小中学校合同作品展「おおり展」	児童・生徒の作品の発表を通して、豊かな心情を培い、創造的な能力の向上を図った。配置の工夫を求める声が多かったため、次年度に向けて、工夫し、参加者からの改善を求める声が少なくなるようにしたい。
468. 青少年のための南大沢音楽祭	地域の児童・学生に日頃の音楽活動の発表の場を提供するとともに、地域住民に音楽を鑑賞する機会を提供することができた。また、ホール舞台上での演奏体験を行うことにより文化芸術への意識醸成を図ることができた。
469. 八王子地域合同学園祭学生天国	大学コンソーシアム八王子加盟 25 大学等の学生で構成する八王子学生委員会が、学生同士や市民との交流を目的として開催した。コンソーシアムの Web サイトやフェイスブック、各部会等での案内のほか、加盟校、市関係施設、町会、商店街等にポスター・チラシを配布するなど積極的な周知を行った。
3-3 市民との協働による地域の活性化 (25 事業)	
470. 南大沢総合センターまつり	生涯学習センター南大沢分館を利用している団体と協働して日頃の学習の成果を発表することで、地域の活性化につなげた。新たな取組として、子どもたちが製作した作品を展示することなどで、前年を大きく上回る延べ 1,756 人の来館者数となった。

■令和元年度(2019年度)生涯学習審議会評価

「459. スマホ・タブレットとパソコン祭り」は、不慣れなユーザーが現代社会をより便利にする良い取組である。オンラインの世界を知ること、新たな趣味や学習などに足を踏み入れるきっかけになるだけでなく、新型コロナウイルス感染症の影響で途切れがちな人的交流をつなぎとめることにもつながり、これからもパソコンやスマホ・タブレット講習の充実に期待したい。

生涯学習の大切さ、面白さ、意義を最も強く理解し、体現されている人たちが、「基本施策3」に掲げる事業に、多く参加されているものと考えられる。そうした人たちが、上記の「基本施策1」や「基本施策2」に、運営側として参加することで、新規参加者を「基本施策3」にまで引っ張ってこられるのではないかと期待したい。

基本施策4 生涯学習環境の充実

生涯学習関連事業 39件

■施策の方向性(旧生涯学習プラン)

生涯学習活動を始めたい市民、学習をより深めたい市民などに対し、講座、サークル活動、ボランティア参加などの情報を分かりやすく提供するとともに、相談体制を拡充させます。また、生涯学習施設、市民センター、各種スポーツ施設、学校施設など、市の有する施設を積極的に市民に提供するとともに、大学や企業などと連携し、市民の学習の場がさらに広がるよう、生涯学習環境の充実を図ります。

■令和元年度(2019年度)の主な取組

4-1 生涯学習情報の収集と発信 (26事業)	
499. 「SUPPORT802」の発行	市民活動に関する情報発信を行った。様々な分野の市民活動団体への取材、助成金情報や市民活動イベントの掲載など、読み手が興味を持つ紙面づくりができた。
500. 生活支援体制整備事業：地域包括ケア情報サイトの公開 (H30.8.1～) 【新規】	関係者や地域活動団体への周知や研修会等で本ウェブサイトについて情報提供を積極的に行った結果、月間のアクセス数は増加傾向となり、69,895 アクセスとなった。掲載情報について、高齢者の社会参加に資する多様な情報を随時追加し、サイト利用者の利便性を高めた。
510. 夏休みイベントカレンダー	各所管で夏休み期間中に実施する小学生を対象とした事業について集約した小冊子を作成し、各市立小学校を通じて児童へ配布した。市の所管だけではなく、外部団体の催しも掲載し、夏休み期間における催し情報を一元化することで、子どもたちの学びの支援ができたとともに、広報に必要な資源の削減に貢献できた。
4-2 相談体制の拡充 (9事業)	
521. 524. 527. 保健福祉・栄養・歯科相談	健康でいきいきした生活が送れるよう、市内3か所の保健福祉センターで、個別相談に応じ健康づくり支援し、相談者の生活改善・意識向上につなげた。生活習慣病予防に重要な40～64歳の成人層の相談数が増加し、高齢期に至る前の年齢層から健康づくり支援につなげることができた。
522. 生涯学習相談	生涯学習情報を提供するほか、個々の学習要望に対して団体の紹介や施設利用法を助言した。新設サークルに対する利用案内、市内のイベント講座情報等の相談に対応した。

4-3 施設の有効活用と開放 (4事業)

530. 姫木平自然の家運営	恵まれた自然環境の中で、自然探究や様々な野外活動と集団生活を通じて、青少年の心身の健全な育成を図った。小中学校の移動教室を中心に、引き続き施設利用を促すことが必要となる。
533. フリースペース	空き学習室を自習スペースとして活用し、学生の学習を支援した。今年度は、土日祝日に加え平日夜間においても開催し、日数を拡大することで大幅な利用者の増につながり、学生の学習需要にこたえることができた。

■令和元年度(2019年度) 生学習審議会評価

「533. フリースペース」は学生が対象となっているが、若者が市の施設を利用した経験が、長い目で見れば、将来的に30年後に生涯学習に参加してみようというきっかけにつながるはずである。そういう点で、この事業は何か具体的に学びのプログラムを提供するものではないが、非常に大事にしていきたい。

現在の状況や昨今の情報収集方法の変化などを鑑み、「518. 講座・イベント・フリースペースの情報について、SNSを通じて発信する」は必要な手段と考えられ、継続・発展を期待したい。SNSとの連動は全ての事業に必要になると思われ、また重要性も一層増していくと思われる。それにより若年層が生涯学習に馴染んでいくという形を作り上げていくのが一番望ましい。即効性はないが、長い目で見れば効果が出てくる方法であるため、今後も根気強くSNSでの情報発信を継続し充実させてほしい。

重要性が増す情報発信だが、その一方で費用対効果の評価について課題があるように感じている。実際はマンパワー(人件費)がかかっているにもかかわらず、事業の予算としては0と計上されているものについては、評価としても不自然なものになる。

また、情報発信の手段としてSNSの活用が進む一方で、ポスター等の紙媒体の情報発信も、デジタル媒体を利活用していない人々への広報としては依然として重要な手段である。予算を計上し、質の高い情報発信・広報を期待したい。

講座やイベントの様態を、許可を得たうえで録画し、YouTubeにアップしておけば、立派なアーカイブになる。今後、生涯学習ポータルサイトを作るのであれば、そこへリンクさせると参加者増につなげられるため検討してほしい。

基本施策1～4 全体にわたる評価

生涯学習関連事業 533件

■令和元年度(2019年度) 生涯学習審議会評価

関連事業533件のうち83.1%がA評価またはB評価の高い評価を受けている。また、C評価でも、PDCAを踏まえた上での今後の積極的な取組が期待できる。コロナ禍にあって事業開催そのものが難しい状況だが、いろいろ工夫し、無理のない範囲で事業継続に挑戦してほしい。

新型コロナウイルス感染症の影響が継続され、生涯学習活動もできるだけ持続継続することになるという点では、コロナの問題は今後数年に渡って大きな問題となるだろう。つまり、感染予防対策と並行しながら、いかに生涯学習活動を進めていくのかということが今問われている。今後の課題として各事業実施団体にも精力的にこの問題に取り組んでほしい。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で、今後あるいは既に中止が決まっている事業に対して、今度どのように評価するか、ということが大きな課題になる。当初計画していた事業を中止した場合でも、代替の内容を実施して次年度以降につなぐようなことができたということの評価することが重要である。